

中国での強制臓器収奪に関する独立民衆法廷への提出物

氏名：Ömer Bekari オムルベク・アリ（ウイグル人）

男性

2017年3月逮捕 2018年1月釈放

（証言は、個人的な証言とラジオインタビューの書き起こしの2部に分かれている）

2017年3月26日、ピチャン（Pichan）の診療所か病院に連れていかれた。医療スタッフと警官の会話を聞いた。「尿検査では2〜3人、彼の前にいる。彼の採尿の番になったら知らせる」トイレに行く前に飲料水を与えられ、採尿するよう強く言われた。30分後、上半身の衣類が剥ぎ取られ、まず腕から採血された。その後、ベッドに横たわり全身を検診された。冷たいジェルを塗られ超音波で腎臓を検診され、その後心電図で心臓、肺が検査された。横向きから横向きへ、そして転がされてうつ伏せになった。背中と胸を検査するためだ。これらの検査で様々な機器が使われていたことも可能だと思う。

肺を検査した。ゆっくり深呼吸するように言われた。検査は約2時間。身体検査の後、警察署に連れられ、目の検査が行われた。瞼を開いたままに抑えられ、左、右、上、下を見るように指示された。同時に、私の瞳孔の位置を写真で撮った。次に指紋が取られ、声が録音された。これらには約1時間かかった。拘束所に戻った時は、夜の8時ごろだった。

2度目は、カラマイ病院での全身の身体検査だった。尋問され拷問を受けた後だった。4月7日と明確に記憶している。カラマイに収監される直前だった。まったく同じ身体検査だった。前回同様、頭に黒頭巾を被せられた。エレベーターで上や下いき、様々な部署に移動させられたので、大きな病院だったと思う。

ラジオ・フリー・アジアでのインタビュー

[https://www.reddit.com/r/China/comments/7ua72n/kazakh\\_citizen\\_arbitrarily\\_imprisoned\\_in\\_xinjiang/](https://www.reddit.com/r/China/comments/7ua72n/kazakh_citizen_arbitrarily_imprisoned_in_xinjiang/)

—オムルベクさん、逮捕され釈放された唯一の方ですね？

はいそうです。

—このインタビューに答えることに合意されますか？

はい。

—簡単に自己紹介していただけますか？

ピチャン県で1976年4月30日に生まれました。

—民族は？

母はウイグル人、父はカザフスタン人です。パスポートにはウイグルと書かれています。ウイグルの学校で学びました。

—いつカザフスタンに移住したのですか？

12年前です。現在はカザフスタン市民です。法的に移住しました。2008年に市民になりました。それ以来、仕事のために2国間を行き来してきました。煩わしいことはなくウルムチに来ていましたし、機関やグループを支援したこともありません。2016年以来、観光会社で働いてきました。

2017年6月10日から9月10日にアスタナで産業見本市が予定されていたので、このイベントを促進する会議に参加するために3月にウルムチに行きました。3日の会議を終え、家族に会いにピチャンに行きました。翌日の10時に警官がきて、私と話す必要があると言いました。制服を着た警官5名に「あなたは我々のことを知らない。しかし我々はあなたのことを知っている」と告げられました。

3月26日でした。書類は一切なく連行され、何の証拠もなく収監されました。カザフスタン市民であるにもかかわらず、11月4日まで収監されました。

父は78歳、母は60歳を超えた高齢者で、ピチャンに住んでいます。

—理由は？

容疑者だと言われました。テロの扇動、テロ活動の組織化、テロリストの隠蔽を責められました。警察に到着してから、彼らはコンピュータのスイッチを入れ、カラマイ保安局からの逮捕状があると告げられました。

—逮捕状は手元にはなかったのですか？

はい。書類は一切ありませんでした。両親に会いに来ただけで、翌日アルマティーに戻るところだったと言いました。「君と話す必要がある。30分で終わる」と言われ、ダリヤツ警察署に連れて行かれました。そこで2時間近く話しました。私のパスポートも電話も取られませんでしたが、妻と近い友人（複数）に連絡し、カラマイから私の逮捕状が出ている。警察署に拘束されていると告げました。

私に何が起きているかを告げると、妻も友人も、とても心配しました。

それから私の電話設定が変更され、使用できなくなりました。県の役人が私に会う必要があるから、ピチャン県の警察署に連れて行くと言われました。

手錠をかけられ、黒頭巾を被せられました。なぜ私にこのようなことをするのかと尋ねたら、規則であり、全ての者にこうしていると答えました。皆、若い男で、協力するように言われました。まず病院（もしくは診療所）に連れられ、身体検査と採血が行われました。全身の身体検査の間、頭巾が取られることはありませんでした。検査の間、会話を聞きながら、生きたまま私を切り裂き、売るために臓器を摘出するのではないかと恐ろしくなりました。ショッキングな体験でした。

検査が終わり刑務所に連れて行かれました。囚人服に着替えさせられ、他13名の若い男性の入っている部屋に入れられました。全員、ウイグル人で、足枷をはめられていました。私も足枷をはめられ8日間そこにいました。

最初の日、カラマイから1名のウイグル人と2名の中国人が尋問に来ました。「あなたは他者のビザ申請を助け、パスポートを入手できると言って金を取った。その金をどこに使った？ カラマイでさらに尋問する」と言われました。

4月3日、カラマイに連行されました。

—ピチャンからカラマイにはどのように移動したのですか？ 頭巾を被せられ、足枷をはめられていましたか？

手錠と足枷ははめられていましたが、頭巾は被されませんでした。

ヤーレンブラク警察署に連れて行かれ、地下室に入れられました。翌日、署長が尋問に来ました。彼の口から出た言葉を忘れることはないでしょう。「カザフスタンは私のXXXと同じだ」（あまりにも汚い言葉なので、口に出すことをためらいます）。

—漢民族でしたか？

はい。Liu という苗字でした。

彼の言ったことには反応しませんでした。何か言うか反論すれば、さらに私の立場が悪くなるからです。

私の43年間の人生に関して質問を始めました。全てを話しました。何も隠すことはないからです。尋問が続き、2日間、一睡もさせてもらえませんでした。

「我々に話すか？」と繰り返し聞きました。

私は「何を話すのですか？」と答えました。

「どの機関と連絡を取っているのか？ この国に入った目的は？ カラマイの人々にどんな業務を提供して来たのか？ 多くの人々がカラマイからトルコ、シリア、ヨーロッパに去って言った。お前が手伝って来た。さらにお前は複数の機関に金銭を渡して来た」

これらの非難を全て否定しました。私の返答を記録した文書に署名する前に、1時間以上費やしました。

「外国籍だから幸運者だ。そうでなければ、我々の激怒を体験していたぞ」と言われました。

4月17日、カラマイ市の刑務所に連行されました。

—この期間、カザフスタン大使館からあなたを訪れた者はいましたか？

6月のラマダンの期間、カザフスタン大使館から役人が私を尋ねに来るが、会いたいかと聞かれました。

私は「もちろんです。会わなければ」と答えました。

ラマダンが終わりイードの祝いが終了した後で、7月16日か17日に北京大使館の外交官とウルムチの外交官が来ました。1時間半話しました。彼らはその場を去る前に、私の権利と刑務所の責務を説明してくれました。

私の権利に関しては、第一に、彼らに私を拷問する権利は全くない。第二に、彼らに私を強制的に重労働させる権利は一切ないと明示してもらいました。

刑務所の責任としては、私が病気にかかったら、治療する義務があり、また1日3度の食事を取らせる義務がある、と説明を受けました。

—カザフスタン国籍だからこのような権利があるのですか？

(カラマイの)刑務所に連行されて以来、最悪の体験は、私の両足首を合わせて足枷がはめられ、片方の足首がベッドに鎖で縛られたことです。6月13日まで、食事も睡眠も体を洗うこともベッドの上で行われました。時折若い看守が洗ってくれました。あの日は今でも

明確に覚えています。私の上腕と足首を1メートルの鎖で繋げ、前かがみの姿勢にさせたからです。

苦悶する姿勢でした。この姿勢を刑務所を出所した11月4日までさせられました。後になって、母と一人の姉妹が私を釈放するようにカザフスタン大使館に助けを求める運動を行なったことを知りました。また、友人と一般の人々が苦情と私の釈放を要求する手紙を書いたそうです。最終的に（カザフスタンの）領事館の外交官が中国政府に対して、私を裁判にかけるにせよかけないにせよ、カザフスタン政府の管理下に放つべきだ、と連絡を入れました。

外交官が7月の一（いちじつ）私を訪れた時だけ、約1時間半、足枷を外されました。立ち上がって歩く時、バランスが取れませんでした。酔っ払いのようにやっと歩きました。自分の無実は分かっています。どんな規則も法律も破っていません。いかなる犯罪に対する罪もないと確信しています。それでも刑務所に入れられると、生存する希望を全て失います。11月4日、書類に署名するように言われました。私の保釈条件でした。外の世界と連絡を取るだけでもいいから、この地獄の穴から抜け出さなければと思い、署名しました。普通の生活では時間や日にちを数えますが、刑務所では秒と分を数えます。

その後、再教育のための収容所に連れられ、20日間過ごしました。

—ひどい状況の刑務所で何ヶ月も過ごした後、再教育のための収容所にはどれくらいの期間いたのですか？

2017年11月4日の夜、カラマイの刑務所から再教育のための収容所に移されました。自由の身になったのは11月24日です。つまり、そこに20日いました。刑務所と変わりました。門番がおり、そこを通過したらすぐに医療検査に連れられました。血圧が185/115でした。最低値が115です。これまで病気にかかったことはないし、高血圧症もありませんでした。

—収容所に着いてから、家族に連絡することは許されましたか？

夜遅くつきました。翌日に家族に電話できるよう手配すると言われましたが、かなりの日数経ってから手配されました。

—1部屋に何人いたのですか？

23人いました。

—どのくらいの大きさでしたか？

私のいた部屋はそれほど密集していませんでした。カメラが設置されており、常に監視されていました。16歳から20歳、中年、高齢者もいました。様々なバックグラウンドでした。政府職員、教師、父母と子の家族もいました。刑期を終えると再教育のためにそこに送られるのです。政府職員は表裏ある顔を持つということで責められていました。もっとも都合のいい告発理由です。

ウルムチ時間を用いたことで連行された人もいました。私がそこを出るとき、法的制度内で働く人々を連行する時期が来た、と幹部がコメントしているのを耳にしました。医師、教師、弁護士が拘束され始めていました。

—全員ウイグル人ですか？

70~80%がウイグル人、30~20%がカザフ人でそのほかの民族はいませんでした。私が耳にしたところによると、1000人以上の若者がいました。収容所はA、B、Cの三つに区分されていました。私はCに収容され、約300名の男性が収容されていました。

—そこに収容されたら何をさせられましたか？

睡眠は夜中の12時から朝の6時まで。朝、すべての寝床は軍隊式に整頓しなければなりません。求められた通りにできなければ、イデオロギーに欠けるとみなされます。

朝7時30分の国旗掲揚に参加しなければなりません。その後、洗面し、朝食をとりません。そして「共産党がなければ新しい中国はない」や「社会主義は良い」などの赤の歌を歌わされました。一人一人がこれらの赤い歌を一曲は歌わされました。また食事の前に「党に感謝し、国に感謝し、習主席に感謝し、習主席の健康、長寿、若さを保たれることを願います」と必ず唱えます。別の長い文も読まされましたが、3日目に私は読みませんでした。文を読むことを拒否したということで、後ろに立たされました。私がロシア語とウイグル語で話したら、私が外国人だということに彼らは気がつき、座っても良いと言われました。

—毎日、これらの言葉を食事前に唱えなければならないのですか？

そうです。これが規律で、規律に従わなければなりません。

—どのような授業に参加させられたのですか？

中国語をよく知らない者は、中国語を教わりました。その他に党の法規、(党を讃える)赤の歌などの授業がありました。すべての授業是北京語で行われ、毎週試験がありました。

授業中に、法廷で扱われた事例と刑期、その理由についての情報を聞かされました。これらの例を通して、規則に従わない場合、どれだけの重罰を受けるかを知らせ、恐怖心を植え付けるためです。授業の間に2時間の軍事訓練 — 行進、気をつけ、号令への即座の服従 — がありました。

この体験から、現在、心的外傷後ストレス障害(PTSD)に陥っています。今もまともに睡眠をとることができません。心理的な障害を受けています。

—あなたがそこにいる間、収容所から出る者はいましたか？

いいえ

再教育プログラム終了までには少なくとも1年はかかると幹部は私に告げました。

—カザフスタン国籍の特殊なケースとして他とは違う待遇を受けたのですか。再教育の収容所は3月、4月に始まったのですか？

カラマイは3月に始まりました。当初人々は、カラマイの外にある収容所に1ヶ月か2ヶ月収容されました。その後、政府の建物と学校が再教育のための収容所に改装されたのです。

—カラマイには合計何軒の収容所がありますか？ 関連情報はありますか？

私が入っていたヤーレンブラク地区に一軒。カラマイには2、3軒あると聞きました。イデオロギーを正すために、再教育プログラムを完了しなければならぬと、少数民族の政府職員が告げられたことも耳にしました。政府職員に情報を伝えた幹部は、中央政府からの直令なので、服従以外に力がないと言っていたそうです。

—収容所での食事は？

刑務所より少しマシでした。朝食は粥。昼食と夕食には肉がありました。刑務所で40キロ痩せたので、私を外に出す前に健康を向上させたかったからそこに送られたのだと思います。

—収容所ではどのような自由がありましたか？

そこに到着してからは、授業の後、洗面所で水を飲む自由がありました。私が収容所を去る直前、拘束者は授業の後も部屋に残らなければならないと言われました。ドアに錠と鎖がつけられました。突然の変化の理由は分かりませんが、緊急事態を感じ取りました。

—シャワーは何回浴びることが許されましたか？

週に1回です。

—病気になったりプレッシャーに耐えられなかったり、精神的な問題が出る人に気がつきましたか？

杖をついた老人を見かけました。他の人々もびっこを引いていました。精神的な問題に関しては、内面で人々がどのように感じているかを知るのは難しい。障害や高齢であることには全く考慮せず、再教育が必要と主張して、彼らは人々を連行してきました。

—日常生活で、石鹸や歯磨き粉などの日用品が必要ですが、家族が訪問できなければ、どのようにこのようなものを入手するのですか？

収容所では、自分の下着を着ることができですが、彼らの衣類を着用する義務がありません。カラマイでは、冬用の服と靴が配布されました。収容所内では、下着と洗面用の製品を販売する店がありました。病気になったら、支払いが可能な場合のみ、治療を受けることができました。

—お金がない場合はどうなるのですか？

治療を受けません。当初、彼らは、私に薬を与えることを拒否しました。私に治療を施すことは彼らの責任だと私は論争しました。私の血圧はとても高く、最終的に血圧降下剤が与えられました。

—死者はありましたか？ 目撃したか聞いたことはありましたか？

いいえ。何も知りません。

—彼らの規則に従い、再教育プログラムに参加したのですね？

はい。義務です。このため、いかなる命令も断ることは不可能です。私が外国人であるかは関係なく、全ての者に命令を拒否する権利はありませんでした。武装警官がいましたから。棍棒を持っている者もいて、服従しない様子を少しでも見せると、即座にやってきて激しく叩きます。ですから与えられた命令に従う以外に選択の余地はありません。最初に収容所に着いた時、中国語で話すことを拒否しました。彼らは私がわざとそうしていると、授業中、教室の後ろに立つように命令されました。7日目に、本棚にもたれかかったら、役人の一人が「もたれかかるのではない」と怒鳴りつけました。教室には他の幹部もいました。「構わないでくれ」と叫び返したら、警官が来て、私を教室から連れ出し、監房に閉じ込めました。

授業中、私はノートに自分の名前をロシア語で書き、他には何も書きませんでした。これが怒りを買いました。私は再教育を拒否し、わざと、中国語で話し、書くことを拒否したとして、私を罵り私の自信を挫くので、私は叫び返しました。

警官が来て私を二人の若者と一緒に連れ出しました。彼らは何をしたのかはわかりませんが、おそらく幹部の命令を拒否したのでしょう。他に5人も理由はわかりませんが、教室から連れ出されました。合計で8名が監房に閉じ込められました。通常、授業のあと、水飲み場から水を飲むことが許されますが、私たちは閉じ込められました。教訓を学び、自分たちの悪い行いを認めるように言われました。家族と再会し、収監されないようにするには、これらの不平な規律に従い、彼らの試験のために習ったことを暗記する以外、外に出るすべはありません。人々が党を抱擁し、国家を愛し、党の規則全てに従うよう、再教育を通して人々の心を解き放つと彼らは主張します。ウイグル人、もしくはカザフ人であるだけで、刑務所でこのような再教育制度を強制的に受け入れさせられることは私にとって実に理解しがたいことです。数多くの無実の人々がこれほどの過酷な扱いを受けている

のを見て、深く悲しみました。同時に私の精神状態も影響されました。刑務所にいる間、私は鎖で縛られ、太陽を見ることはできず、飢餓に苦しみました。自己の尊厳が踏みにじられることを受け入れることはできません。

これら全ては、永遠に私に残ることでしょう。収容所に到着したとき、翌日家族に連絡を入れることができると言われたにもかかわらず、電話をかけることは19日目まで許されませんでした。毎日、口実をつけて、電話をかける手配を拒否したのです。最終的に、カラマイ市の法廷の責任者と市の司法局の責任者の連絡先の詳細を求めました。詳細を提供すると言われましたが、何も起こりませんでした。19日目に担当の管理者が「中国語を話すならすぐに会いにくる」と行ったので、「私を撃つか刑務所に戻してくれ。お前たちの教えは学ばない」と叫び返しました。

3人の警官が来て、私の腕を背中に回し手錠をかけ、監房に閉じ込めました。ドアを蹴りながら叫びました。セキュリティの責任者が来て、やめるように怒鳴りました。中国語がわからないふりをして、ウイグル語で叫び返しました。手錠から手を外そうと激しく動かしたため、手首から血が出て麻痺しました。最終的に手錠は外されましたが、2日間、何も食べ物を与えられませんでした。翌日、一人の警官が来て食べ物が欲しいかと尋ねたので、このように罰せられるためにどのような犯罪を自分が犯したのか？ 普通、処刑前でも食事は与えるじゃないかと尋ねました。すると、警官が5、6さじの食べ物を運んで来ました。部屋が一緒だった拘束者たちが私に分けてくれたものでした。3日目に自分の部屋に戻りました。部屋の者が何か食べたかと尋ねたので、「持って来てくれた5、6さじだけだ。でもありがたかった」と答えました。私がこういっていると彼らは驚いて「我々の食事から皿をいっぱいにして送ったんだよ」と言いました。警官がそのほとんどを捨てたことに気がつきました。

そこに到着した時、新しいキルト（ベッドの上掛け）を与えられたのですが、要求される基準に合わせて畳むことがなかなかできませんでした。そこで若者の一人が彼のキルトを使わせてくれました。畳みやすかったので、さらに罰を受けることから逃れました。あらゆる形で受けた親切に深く心を動かされました。お互いに人間性を見せようとしていました。

午後3時ごろ、名前が呼ばれました。自分の所持品を集めて出る準備をしろと言われました。同室の者に「刑務所に連れられるか自由の身になるかだ。皆、気をつけて」と言いました。

一人の警官が迎えに来て、私は釈放されると言いました。「冗談を言わないでくれ。本当なら握手してくれ」と言ったら、握手して「本当だ。お前は釈放され、カザフスタンに戻るのだ」と言いました。

「ここではずっと不当な取り扱いを受けてきた。私は教育のある人間で4ヶ国語を話せる。お前たちの言葉も母国語のように話せる。小学校から学んだからだ。お前の言葉で教師になる資格を持っている」と言いました。皆、驚いて「中国語を知っているのか」と言いました。私は「そうだ。習得した。野蛮で下劣な者から教育を受ける必要はない」門を出る前に警官たちに言いました。「政府のあらゆるレベルに苦情を提出する。北京の中央政府まで全てだ。私に対しての全ての罪から私の汚名を晴らす。必ず補償を支払わせる。私の逮捕を命令した部署の責任者が仕事を失うようにする」

妹の家に送られました。皆、私を見て、涙を流しました。

私の視点からいうと、彼らは再教育を通して、人々を羊のようにしようと思っていますが、実際はその逆に、憎悪の種を撒き、敵を作っているのです。私個人の意見ではなく、若者から高齢者まで、刑務所にいる人々のほとんどがこのように思っています。90%は教育のある人々です。正義感のある人々です。私は、正義のために追求していく決意をしました。

一家族に何か起こりましたか？

これを聞くことで、彼らが罰せられるかどうかは分かりません。しかし私が去ってから1ヶ月後に一人の兄弟が連行されました。

—彼はどこにいましたか？

ピチャンにいました。